

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	52	モダンな雰囲気作りではあるが、リビングなどに昭和を思い出せるような和の雰囲気があるとよい。(けん玉、こま、凧等)	入居者様が落ち着いて、懐かしむ事が出来るような和の雰囲気づくりの空間ができる。	①和の調度品の飾る意味や目的を職員に伝えていくとともに飾りや調度品等を用いたコミュニケーション方法(回想療法)を行っていく。 ②調度品は職員やご家族様に負担のない程度に寄付を募っていく。 ③暮らしの中で、入居者様と一緒に、リビング内に季節の花を飾り、ベランダで野菜や花を育て、自然に触れ合う環境づくりをする。 ④本人様の趣味や特技を活かしていき、完成した作品は無造作に飾るのではなく、本人様の作品を飾る際の意向を確認して、リビング等に飾る。	6ヶ月
2	33	現時点では看取りの経験がないが、今後の要望(自然死や平穏死)に対応して行く為に、看取りの考え方や理解、経験が必要である。	毎日をその人らしく過ごしていただく。	①併設事業所と連携し施設内の看取り研修に参加する。 ②日々のケアの中で、職員一人ひとり「このケアが最期になるかもしれないこと」を意識するために、「もし自分だったら・・・」と考えることができるようエンディングノート等活用して事業所内で研修する。 ③普段の生活の中での会話や面会時等、入居者様やご家族様の想いや意向、要望等を汲み取り、ケアプランへつなげ、サービス提供していく。(その人らしい最期を本人様やご家族様、多職種が情報を共有して、共に考えていく。)	随時
3	5	在宅で暮らして見える認知症の方やそのご家族様、地域の人への支援等役立つことを事業所として取り組みを考える。	小学校、公民館、老人会など地域の一員として交流の機会を持てるようになり、施設を知って頂く機会をつくる。	①地域行事に積極的に参加し、自施設を知っていただく機会を持つ。 ②運営推進会議を活用し区長や民生委員、町内会長の皆様のお力を借りて、地域住民の方と橋渡しを働きかけ、施設へ来所していただけるようしていく。 ③入居しているご家族様に対して、お茶会等企画して、グループホームの生活の様子を知り、体感していただく機会を設ける。	12ヶ月
4					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。